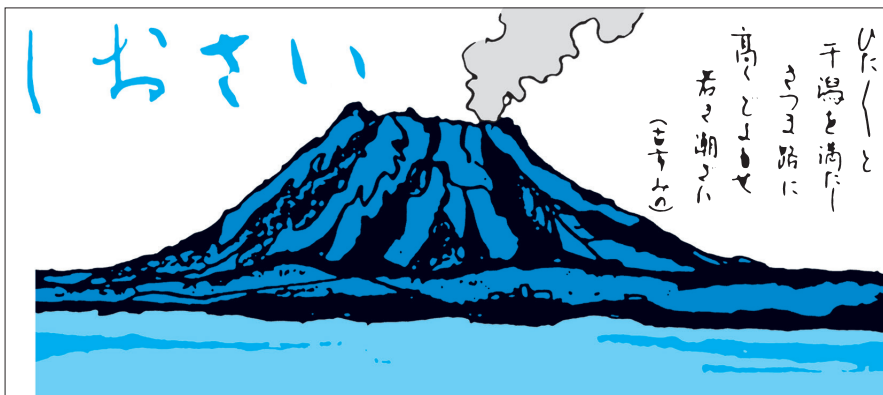




編集発行人

鹿児島大学保健師同窓会 しおさい会
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
地域包括看護学講座内

連絡先 会長 児島 淳子
電話 [REDACTED]

「ホームページに求人情報も掲載中

<https://shiosaikai.org/>

ホームページからも住所変更やしおさい会
セミナーなどの参加申込みが可能です。」



鹿児島大学保健師同窓会
しおさい会会長

児島 淳子 (S53年卒)

いあいさつ

令和5年、あけましておめでとうございます。
同窓生のみならず、希望に満ちた、輝かしい新年
をお迎えのこととお慶び申し上げます。
今年は、「卯年」。「卯」は、その跳躍する姿から、「飛
躍」、「向上」するものの象徴として、親しまれてき
ました。それにあやかり、掲げた目標が、更に前進
できたらと期待します。
さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス
スがなお猛威を振るい、年明けから流行「第6波」
に突入し、夏の「第7波」、その後年末の「第8波」
へと、感染者数と死者数は増加しました。その対応
に懸命に従事された皆様に感謝の念を抱きます。ま
た、11月中旬以降、鳥インフルエンザが過去最悪の
ペースで拡大しました。養鶏業者の方々の苦悩は大
きく、感染拡大防止のためにとられた対策におい
ては、自治体や保健所等の職員とともに、短期間に大
変な苦労があったことと推察申し上げます。生物
の健康を脅かすウイルスとどう向き合うことができ
るのか、「ウイズコロナ」の取り組みで、以前の生活
に戻ろう。」と、行動制限解除もなされた今、更に
予防対策に配慮することが求められております。
このような状況の中、同窓会の運営につきま
しては、昨年の5月に「第9回しおさい会セミナー」を
医学部保健学科共通教育棟の2教室を使って開催致
しました。その様子につきましては、次項に掲載
いたしましたのでご覧ください。在校生の参加と、リ
モートによる参加も頂き、学校はもとより関係する
方々の協力を得て開催できたと感謝いたしております。
また、役員会の課題の一つ、「健全運営のために
会費の徴収による予算確保と、看護同窓会つめくさ
会からの資金提供の打診」がありました。これまで
の、2年に1回の会合型同窓会においては、その日
に会費を納入される方も多く、結果納入率も高い実
績がありました。ところが、書面総会の実施により、
会費納入については、同窓生の各自の判断により振
り込んでいただき、会費納入額の推移では、下降し
ております。そして、数年来、相談を願ひ出ており
ました「つめ草会」様から、12月12日に、お返事が
届きました。「つめ草会」の8月発行の会報誌に掲
載されているその文面を、私共「しおさい会」の会
員にも、直接お伝えくださいますことでした。以下
その文面です。* しおさい会様へつめ草会の資

金の一部をお渡しするかどうかについて、アンケ
トを実施し、ご意見を頂戴しておりましたが、コロ
ナの発生後、終身会費による収入が急激に減り、会
存続がややぶれたため、総会による検討を見送ら
せていただいております。ご理解いただけますと幸
いです。「つめ草会」におかれては、アンケート
集約や、現役員体制の中で協議頂いた結果、現在示
された方針であります。同窓会に、新規加入する学
生の激減という事実は、いづれの同窓会も抱える課
題です。「魅力ある同窓会への発展を如何にするこ
とか？」再考する必要性を感じました。
さて、鹿児島大学における教育について、令和4
年3月25日、医学部保健学科のホームページに「保
健師過程の選択制の廃止」という記事が掲載されま
した。更に、9月21日に、「令和5年度の入学生から
保健師国家試験受験資格が取得できなくなりまし
との情報も示されました。今後の教育の方向性に
ついてそのビジョンを、水田明子教授にも、筆を執っ
ていただき、次項にお示し頂きました。現在、在学
中の学生の方々の学びと、令和5年度入学の学生の
学びに変化が生じます。同窓会として出来ること
はないか、今後の「しおさい会セミナー」とも関連付
けて、取り組んでみたいと考えております。
ところで、今年は第22回総会を、8月に書面総会
にて開催予定です。前回に引き続きの書面総会では
ありますが、総会時に開催していた講演会をリモ
ートにより行いたい方向性で検討中です。感染症の影
響があらうとも、取り組める方法で臨みたい意向で
す。会場も中央駅前のキャンセの中での広い会場を予
約しております。今後の案内に関心を寄せて頂いた
ら幸いです。現在の役員の数も、この総会時に交
替となります。この総会・研修会まで、力を合わせ
て取り組んで参ります。
挨拶の最後になりましたが、様々な世界の情報を
聞くたびに、「当たり前」の日常の大切さを、感ぜ
ずにおれません。ロシアによるウクライナ侵攻が、
世界の外交や経済に大きな影響を及ぼしました。そ
の中で、人々の穏やかな日常が壊され、人命も奪わ
れました。この挨拶のお便りが、皆様の手元に届く
春のその時には、穏やかな情勢に変化していること
を願って、今年の年初めの挨拶と致します。

第9回しおさい会セミナー

令和4年5月21日(土)

10時～12時

鹿児島大学医学部保健学科共通教育棟4階

＜ご報告いただきました＞

前列左から上村真弓様、牧之瀬麻由様

前野律江様、水田明子教授

詳細は3、4ページをご覧ください



「地域創生に貢献できる人材育成」を 目指した保健師養成過程の院化について

鹿児島大学医学部保健学科

看護学専攻地域包括看護学講座

公衆衛生看護学教授 水田 明子



コロナ感染症の第8波とともに、令和5年を迎えました。昨年を代表するWordは『Goblin Mode』です。しおさい会の皆様には年末年始にコロナ疲れをとり、鋭気を養うことができたでしょうか？

鹿児島大学では、令和8年3月に医学部保健学科看護学専攻での保健師養成課程が廃止となり、大学院前期博士課程公衆衛生看護学コースの開設を令和8年4月に予定しています。令和4年度の入学生が学士取得最後の保健師となります。保健師課程大学院化の目的は、地方国立大学の使命である「地域創生に貢献できる人材育成」のため、鹿児島県の特性を考慮し、離島・へき地の多様な健康課題に対応できる専門性と、リーダーの資質を備えた高度な実践能力、管理能力を持つ保健師の育成を目指します。

ここで、これまでの保健師養成課程を振り返ってみましょう。昭和17年4月に発足した財団法人鹿児島県社会事業協会保健師養成所は、昭和36年4月に県立鹿児島大学医学部附属保健師学校として国立に移管されました。平成元年3月に保健師学校が閉校となり、昭和61年4月、鹿児島大学に併設された鹿児島大学医療

短期大学部は、保健師助産婦看護婦法に規定する学校として指定されました。地域看護学特別専攻が設置され、看護学科の定員80名に保健師の養成が行われました。平成10年10月、現在の医学部保健学科へ移行しています。平成27年度から、公衆衛生看護学領域専任教授が不在の中、選抜制15名となりましたが、鹿児島県への説明がなされておらず、令和元年度には40名に増員されています。

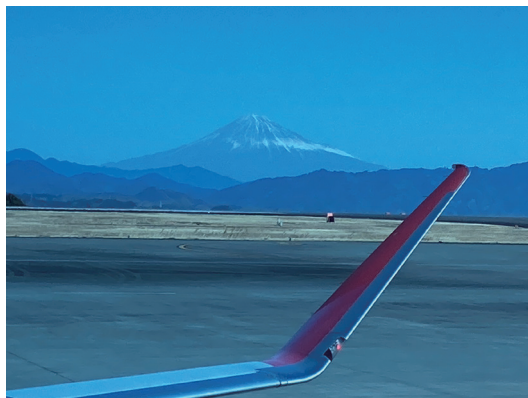
私は令和2年4月に着任いたしました。就任式の後の懇談会で、学長より「水田先生には大学院化をお願いします」とお話があり、重大な責務を担うことになりました。着任1年目に、予算と実習施設がなく保健師課程の学生全員が離島実習を行うことができないという理由で、看護学専攻での大学院化合意はなされていないものの、具体的な取り組みは殆どしていない状況がわかりました。そのため、2年目に保健学科での合意をとりなおし、その後、学長主導による大学改革検討会議で大学院化の議論が進められました。私は、大学院化を「したい」「したくない」という看護学専攻教員の意向ではなく、「できるか」「できないか」を自問自答しました。この年はコロナ禍であつて



も臨地実習を多くの施設で受け入れていただき、本学卒業生が活躍する様子を拝見する機会になりました。本学学生への丁寧なご指導があり、将来一緒に働く仲間になって欲しいという期待を強く感じました。また、しおさい会前会長の徳永龍子様から、鹿児島県の活発な保健師活動、その長い歴史をお聞かせいただきました。このような体験を通じて、「高度な能力を備えた保健師の育成は鹿児島だからこそできる」と決心いたしました。そして、学長命により、橋口医学部長から鹿児島県くらし保健福祉部長に大学院化の趣旨説明があり、県より意見書をいただきました。文科科学省への学部養成廃止の申請は、県の後押しがあつて受け入れられました。意見書に関しましては、県統括保健師であつた福田みゆき保健師に多大なお力添えをいただきました。しおさい会からは大学院化に関する要望書をいただきました。3年目になり、2年間以上続いた人員不足で体調を崩してしま

いましたが、現会長の兒島淳子様より吉住嘉代子保健師をご紹介いただき、高田千春保健師と共に実習、教育、教員研修にご尽力いただきました。私は同窓会の皆様のお陰で必要な休養をとることができ、学生は経験豊富な保健師による学生指導に恵まれました。人員不足のピンチは、しおさい会をはじめとして、実習指導者の皆様、全国と九州ブロックの保健師教育協議会会員校の教員の皆様に、「鹿児島大学公衆衛生看護学領域の動向」を知っていただき、ご協力をいただけるチャンスとなりました。

『Hope for the best but expect the worst (最悪に備えて最善を望む)』、困難な時期をソーシャルキャピタル(信頼、規範、ネットワーク)で乗り越え、令和8年度の大学院開設では公衆衛生看護学領域を躍進できるよう鋭意努めますので、引き続きご支援をいただけましたら幸甚でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



第9回
「こころの健康」セミナー報告

令和4年5月21日(土)第9回
しおさい会セミナーが、鹿児島大
学医学部保健学科において初のハ
イブリッド方式で実施されました。
学生：9名(会場3名 オンライン
6名) 学生外：21名(会場16名
オンライン5名)の参加があり、
「コロナ禍でも変わらぬよりそい
力」各現場の声を聴く」をテーマ
に3名の方から体験発表をいただ
きました。

体験発表①
「コロナ禍でも変わらぬよりそい
力」コロナ禍での保健所業務」
始良保健所 牧之瀬 麻由 氏



令和3年4月から始良保健所地
域支援係で精神保健を担当

○保健所の業務について

始良保健所は2市1町(霧島市
始良市 湧水町)を管轄している。
始良保健所の新型コロナ感染症危
機管理体制は、疫学調査班、患者
搬送・検体搬送班、健康調査班、
総務班1・2の5つの班で構成さ
れ、保健師は疫学調査班に所属し
ている。主に感染者への行動調査・
病院及び介護施設等への調査を
担っている。感染者の行動調査で
は、感染者の増加にあわせ、重症
化リスクの高い方を優先に対応を
行っている。

また、感染拡大防止を目的とし
た病院及び介護施設等への調査で
は、疫学調査、感染管理状況の把
握、PCR検査の受検調整、ゾー

ニングや感染対策を確認し、感染
症専門医と感染管理認定看護師へ
協力を依頼している。職員や利用
者の日々の健康管理の把握と情報
共有も重要な役割となっている。

○心に残っているケース

①娘の学校生活を心配する母親
学校の学校生活を心配する母親
娘へのいじめを心配する母親へ
の対応では、対象者の立場に立ち
丁寧に説明を行った。

②精神疾患を持つ親子

パニックに陥った精神疾患を持
つ親子の対応では、疑問の一つ一
つに回答し、親子同室の入院調整
と搬送班へ精神科の薬の代理受理
を依頼した。併せて家族の体調確
認と検査案内、関係機関との情報
共有を行った。

このケースでは、対象者毎に生
活背景が異なることを強く認識し
配慮する必要がある。

③クラスター発生時の障害者施設
や高齢者施設の職員

職員は使命感と責任感が強く、
休めない。また、家族への感染リ
スクと風評被害を危惧し、施設内
で寝泊りしている。

このような心身共に負担過重な
状態にある職員たちの思いを理解
共有し、ともにクラスターに立ち
向かう仲間として対応した。

○保健師としての心がけていること

①一人一人に真摯に向き合い、信
頼関係を構築すること

対象者の状況や感染に対する受
け止め方を限られた時間の中で把
握し、療養生活の不安や困難に、
共に向き合うようにしている。

②対象者や現場の状況を適切に把
握し、必要な情報や支援を考える
こと

③科学的根拠のある正しい情報を
伝えること
④未来にも目を向けること
疫学調査は、血糖コントロール
等の状況に気づき、療養後の「健
康管理」に触れる貴重な機会でも
あった。

最後にいつかコロナ禍の対応は
大変だったねと振り返る時がきて
この経験を生かせる日が来ると信
じて今後も活動を続けます。

体験発表②

「新型コロナ宿泊療養者への心の
ケア相談に従事して」
(元) 鹿児島県精神保健福祉セン
ター 上村 真弓 氏



令和2年4月〜令和4年3月ま
での2年間精神保健福祉センター
で新型コロナウイルスの心のケア
相談に従事

○新しい言葉「コロナうつ」

令和2年、ダイヤモンドプリン
セス号乗船客の感染や芸能人の死
亡等の報道が続く、私たちは、怖
い病気のイメージを持った。ま
た、新型コロナウイルスには3つ
の顔があり、①感染症そのものの
顔 ②不安と恐れ そして、③嫌
悪・偏見・差別をもたらししている。
(日本赤十字社) このような背景
が、外出自粛や周囲の感染対策に
不安を持つ「コロナうつ」の方
々の相談が増えた。

○精神保健福祉センターの役割

①感染症指定医療機関、帰国者・
接触者相談センター等の医療従事
者向け相談業務(令和2年4月開

始)
②心のケア相談員(専用電話)の
心のケア相談業務(令和2年7月
開始)
○宿泊施設での心のケア相談
令和2年7月、鹿児島県で初の
クラスターが発生し、無症状・軽
症者の宿泊施設が開設された。部
屋から外出できないことが、入所
者のストレスとなることと予測さ
れた、心のケア支援を行うことに
なった。
方法としては、入所後3日目に行
う「こころの健康スクリーニング
(K6)」の自己チェックにおいて、
10点以上または療養施設の看護師
から依頼があった入所者に、内線
電話による声掛けや相談に対応し
た。特に高ストレスが危惧される
方については、その方の背景を丁
寧に聞くことに注力した。

○宿泊施設職員の連携

入所者は感染したことへの不安と
宿泊施設の手続きや場所等の不安
など様々なストレスを抱えている。
①県職員は、統括業務や入所者へ
の対応を担い、看護師が入所者の
健康観察を行った。担当医師は、
入所者向け「よくある質問とその
回答」Q&Aを作成し、見通しが
持てるようになった。

②宿泊施設周辺の住民に担当医師
が説明し、感染の不安や風評被害
の心配を取り除き、理解を得るこ
とができた。

○相談対応を行って
「相談件数 令和2年度483
件 令和3年度 529件」
相談の多くは、感染症や差別や偏
見に関するものであったが、中
には休業による収入が減少し、生
活困窮に関する相談もあった。

また、「あんなに気をつけて
いたのに自分が感染してしまっ
た。頑張っている同僚に迷惑をか
けて申し訳ない。でも、しつかり

休んで帰っておいでと言われてい
る。優しい言葉をかけてもらって
ありがたい。職場に戻ったら頑張
ろう。」と話す看護職の入所者も
いらつしやう。

基本的に相談対応は傾聴である。
この事例では、周囲のサポートの
大切さも感じた。

参考「※困難な状況で働く職員が
こころの健康を維持するために必
要な4要素(日本赤十字社)」

①職場遂行基盤(スキル・知識・
安全)

②個人のセルフケア

③家族や同僚からのサポート

入所者は、感染判明時の不安や
動揺に始まり、入所後の環境の変
化に対する不安が重なる。そして
徐々に症状が安定し、現状を受容
できるように変化していく。その
過程において「家族・友人と会話
ができ、安心できる声かけ、励ま
しを受ける」ことが、気持ちの安
定につながる。

最後に
○電話相談の難しさ

「こころの健康スクリーニン
グ」の点数が高いだけで、相手が
必要としていないこともあり、限
られた情報で相手の状況に思いを
馳せながら話すことが難しかった
が、カルテを見ながら話せるよう
になつてからは、相手の背景を想
像することが容易になった。

体験発表③

「コロナ禍でも変わらぬよりそい
力」コロナという健康危機災害と
保健師活動」

(元) 鹿児島市保健政策課

前野 律江 氏



現在、鹿児島市では保健師106名が21課に所属している。

○令和2年3月までの取り組み
(患者発生はないが、不安が広がる)

帰国者・接触者受入れ可能な医療機関を増やすため、救急外来を持つ機関の了解を得ることに奔走。自分は帰国者・接触者相談センターの臨時職員に配置調整を行った。

○令和2年4月 本市一例目の患者発生時の対応

コロナ対策班が対応し保健師も全庁的な協力体制をとった。帰国者・接触者外来についても小児科・産科・精神科の協力を調整交渉し、協力連携機関を増やした。

「クラスター1への保健所対応」

陽性者への2週間の疫学調査でクラスター発生源となりうる施設を特定。

迅速な感染拡大防止策とクラスター発生源の公表を行った。併せて、「不特定多数の利用者への注意喚起」「市民疫学調査への協力依頼と感染防止対策」「報道機関の協力による広報」を行った。

また、「帰国者・接触者外来の体制と検査体制を拡充」することにより、全症例のうち97%以上の高い確率で追跡できた。

部署を超えた保健師の協力体制で積極的疫学調査を実施できた。

○令和3年4月 新型コロナウイルス感染症対策室設置

第五波デルタ株が到来し、陽性者が急激に増加。自宅待機者も増え、病状や現病歴・年齢等による

優先順位をつけて対応を行った。

また、「市在宅医会と診療体制を確立」「看護協会と訪問看護体制を確立」「パルスオキシメーターの配布」「食料支援」を開始した。

○令和3年10月 応援勤務開始基準の設定等

第六波に備えて、応援勤務開始の基準を設定し、応援従事者用のマニュアルを見直した。

ほか、「コロナ室保健師の業務分担制」や「ホームページを利用した陽性者・濃厚接触者の健康観察内容の入力や必要な情報発信」など体制等の整備を図った。

○令和4年 第六波到来

陽性者に対する陽性告知の連絡も滞る現実に、鹿児島市職員が一丸となってコロナ対応に動き出した。

「陽性告知・健康観察・就業制限解除」について電話連絡する内容をまとめたマニュアルを作成し、誰でも従事できるようにした。複雑な質問は保健師が対応した。



○市民が安心できる体制づくり

「有症状時に受診できる医療機関」「気になるときに誰でも検査できる無料PCR」「いつでも相談できる受診相談センター」など相談窓口等の整備が図られた。

最後に

○新型コロナウイルス対策の中で感じたこと

健康危機災害であるコロナ感染症の対策は、平常業務も進めながら災害対応を行わなければならなかった。

また、人との距離や外出制限、保育園、学校の休校と休業、収入減少、生活の不安、心と身体の不

調等など、市民の暮らしへの影響が続いた。保健師としてできることは、地域に生活する人の声に耳を傾け、言葉と気持ちを受け止める寄り添った支援をしていくこと。まずは隣にいる人から…

《体験発表後のディスカッション》

コーディネーター 吉住氏の進行的もと、3名の発表に共通するキーワード「偏見差別・誹謗中傷」をテーマに、それぞれの働きかけや学校や地域で行う「正しく恐れるための知識の普及」について意見の交換がされました。吉住氏からは、保健所業務の逼迫したときこそ市町村・企業・施設

設・学校、そして在宅の保健師の力が必要であり、今回のセミナーは、「今、私たちにできることは何か」を考えるきっかけとなった。そしてすべての保健師がともに考えることで大きな力となる。10年後に同様な事態に陥った時の保健師の活動体制を考えることも重要であることを強く意識するセミナーとなったのではないだろうか。会場からの質問もあり、コロナ禍における保健師活動について、活発な意見交換が行われ、初めてのはあつという間に終了となりました。(文責：盛満)

第8回しおさい会セミナー参加者について

セミナー参加状況

【しおさい会セミナー参加者】

・学生 9名(会場 3名 zoom 6名)
・学生外 21名(会場 16名 zoom 5名)
・発表者 4名

セミナーアンケート集計結果より

1、印象に残ったこと

＜学生＞

①中傷が起る要因には、他者を悪者にする事で得られる安心があると知る

→自らも戒めた(60代 元市町村)

②情報発信する側と受け取る側の(保健師と市民)捉え方の違いを念頭に発信する必要

③HC内でのコロナ対策業務を知ることができた

④それぞれの対象者で生活背景が異なることを改めて知ることができた

＜学生外＞

①電話対応・相談においても相手のニーズ、背景を捉えながらの支援が大切と学んだ(20代 市町村 2名)

②新型コロナは「健康危機災害」であるという観点をもって保健師としてのこれからを考えていきたい(60代)

③組織作り、感染予防、療養支援、心の健康、寄り添い力が理解できた(60代 相談員)

④実際のコロナの業務、保健師の思いを聞くことができた(50代 県職 30代 事業所)

⑤保健師がこのコロナ対策の中で大きな役割を担っており、誇らしさを感じると共に、認知度が上がったと思う(60代 元市町村 2名)

⑥平常業務と並行して行うコロナ対策のあり方について知った(40代 市町村)

→常に対象者に寄り添う視点を忘れない姿勢に胸がいつぱいになった(50代 県職)

⑦「正しく恐れる」、印象に残りました(50代 市町村)

⑧「まずは隣の人から」という言葉が印象的<できる事をコツコツ>(20代 元市町村)

◎違う立場でありながら対象者・家族に寄り添って丁寧に接していた

→保健師の幅広さ、奥深さを知れた(60代、50代、学生2名)

2、感想

・発表者がそれぞれ違う立場で、年代(経験年数)も違い、幅広い立場での発表がよかった(学生 2名)

・現場の生の声が直接聞けてとても興味深かった(学生 3年・4年)

・これから仕事に生かしていきたい保健師の強みを生かして>(20代 市町村)

・保健師として振り返り、必要なことは何か、改めて学ぶ・考える良い機会になった(学生、50代 市町村)

・セミナーを通して、更に保健師になりたい気持ちが強くなった(学生)

・「私たちにできる事は何か」学生の今、できる事を考えていきたい(学生)

・大変良かった、他の人(OBたち)にも伝えよう

・在宅の保健師をもっと活用してほしい(60代)

・また、生の声でつながれる日を期待したい、これからも保健師で頑張りたい(40代 市町村)

・明日から自分にできる事を考えていきたい(30代 県職)

・元気をいただいた(50代 県職)

3、その他

・初めてのWEB開催、協力機関に感謝(50代)

・三人の発表に加え、まとめ・質問などで深めることができた(20代 学生)

・ハイブリッド開催で、自宅から参加できた。会場を2か所使うことで密を避けることができた(50代、その他)

4、工夫してほしかった点・課題

・もう少し質問の時間が欲しかった(学生)

・隣室の音響(窓を開けて、工事の音等の問題もあるか)がよくなかった

→マスクのせいもあるのか(20代・40代 市町村 50代 県職)

・学生からの話も聞けたらよかった

・午後からの参加しやすい

・参加者同士の交流がもう少しできたら(60代)

しほちゅうきせみナーに参加して

昭和49年卒 末吉 とよこ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まった令和2年1月中旬、私は脊柱管狭窄症の手術のため入院していました。インフルエンザの警戒体制はとられていましたが、自由に面会もでき経過も良かったため無事1月末には退院できました。それからまもなくコロナ発生、世の中は生活も医療も大混乱、発症し、重症化しても家族は面会もできず臨終の場にも立ち会うこともできない悲しい状況が続きました。

市のOBとして保健所の現場は大変な状況になっていて、うと、心配するだけで、応援の要請にも応えられず申し訳なく残念な思いで過ごしていました。地域では、「〇〇でクラスターが発生したらしいよ」「感染者はどこの人か？」等うわさ話が飛びかかって発症した方もそうでない人も大きな不安をかかえる毎日でした。

そんな時、しおさい会セミナーの案内があり、保健師の現状を知りたい、自分が地域でやれることを見つけれないかな等の思いで参加しました。

セミナーで一番心に残ったことは、市、県の保健師たちが、各々の置かれた場所でコロナ患者家族の方々の心に寄り添っておられたという点でした。私も在職中感染症の発生に伴う支援に携わる時、患者や家族を社会からの差別や偏見から守る姿勢は大切なことと感じていましたが、誹謗中傷する側の不安な気持ちを受け止め、新型コロナ

ウイルスの実態をしつかり伝えられることで偏見や差別の改善が図られることを学ばせて頂きました。

もう一つ印象に残った言葉があります。「保健師である私達には、今できることがある」としつかりした分析のもとに業務を進められたとの報告でした。

発生から間もなく3年が過ぎようとしています。現在も保健師は大変な思いをしながら業務にあたっておられる事かと感じています。鹿児島市では、健康福祉局保健部新型コロナウイルス感染症対策室という部署ができ、保健師の人員増もあつたと聞いています。そんな後輩たちの活躍を誇りに思い、保健師に光があてられたことを嬉しく感じました。セミナーでは、なつかしい先輩や後輩に会えて元気をもらいました。しおさい会の役員の方々に感謝して終わりにしたいと思います。

鹿児島大学医学部保健学科

看護学専攻四年 崎田 笑菜

今回、初めてしおさい会セミナーに参加させて頂きました。コロナ禍で働く保健師さんたちから現場の声を聞いて、それぞれの場所でも多くの保健師さんが新型コロナウイルスの対応に励んでいる現状を知りました。また、現在の現場の状況や実際に対応したケースについてのお話を通して、感染症対応の実際やその中で保健師の役割、保健師として大切にしなければならぬことについて学ぶことができました。授業や教科書で勉

強するときとはまた違った学びを得ることができたと思います。心に留めておこうと思う内容ばかりで、とても勉強になりました。

6月の実習では、家庭訪問や健康教育、健診など様々な事業に参加させて頂きました。

実際に地域住民の方々と関わりながら、保健師の役割や魅力を感じる事ができた実習でした。新型コロナウイルス禍でも快く学生を受け入れて下さった保健師さんをはじめとする職員の方々と、地域住民の方々のおかげで本当に多くのことを学ぶことができました。忙しい業務の中で、沢山ご指導頂きありがとうございました。

今回のセミナーは、現場の声を直接聞くことができた貴重な時間でした。今回の学びをこれから生かしていこうと思います。ありがとうございます。

鹿児島大学医学部保健学科

看護学専攻四年 豊倉 世梨佳

しおさい会セミナーに参加させて頂いたとき、コロナ禍においてそれぞれの場所で活躍されている保健師さん方の取り組みについて知ることができました。新型コロナウイルスという未知の感染症に対しての体制整備や対応の実際についての生の声を聞き、保健師さんの役割の大きさと精神面にも配慮した支援の大切さを学ぶことができました。感染された方は症状だけでなく仕事や学校への影響の心配や外出できないストレス、周囲の人の目など様々な不安を抱えていらつしやいます。その不安を受け止め、寄り添った支援を行うことが大切だと学びました。

鹿児島大学医学部保健学科

看護学専攻四年 萩原 美紀

しおさい会セミナーに参加し、先輩保健師の方々の話を聴くことができて充実した時間となりました。新型コロナウイルス感染症の対応では、県保健師が、感染者の行動調査やクラス

また、感染者一人ひとりに真摯に向き合うことや、対象の状況に合わせて必要なことを考えること、根拠に基づいた正しい情報を伝えることなど保健師として必要な態度についても知ることができました。

今年の6月には保健センターで公衆衛生看護学実習をさせて頂きました。実習の中で乳幼児健診や特定保健指導、お達者クラブなど様々な事業に参加させていただき、対象の背景に注目することの大切さや様々な専門職や地域住民の方々と連携を取ることの重要性など多くのことを知ることができました。事業への参加を通して、保健師としての視点や態度、知識など実践的な学びを得ることができました。また、健康教育も経験させていただきました。健康教育では対象を理解し、対象に合わせた教育内容を考えることや正しい情報を伝えるための表現の仕方など多くのことを学ぶことができました。保健センターの職員の方々や地域住民の方々など多くの方に支えていただき充実した実習を行うことができました。本当にありがとうございました。

今回のセミナーでコロナ禍における現場の声を聴くことができ、とても勉強になりました。ありがとうございます。

ターへの対応などを行うことなど、鹿児島県で実際に行われている保健活動を学びました。感染者やその家族によって生活背景や抱えている不安は異なります。対象に合わせ、療養後の生活も視野に入れた支援を行うことが求められているということに気がかりました。また、新型コロナウイルス感染症の感染やクラスターによる誹謗中傷、職場復帰や学校での学習などについての不安、外出ができないなど、精神面のケアも重要だと感じました。電話相談では、カルテを見ることもできず、少ない情報の中から支援を考えなければなりません。場面や背景など想像しながら、対象の話を傾聴や寄り添った支援が必要であることを学びました。

今年の6月には、鹿児島市東部保健センターで実習を行いました。実習生担当の保健師の方々と吉住保健師さん、教員の方々に多くのご指導をいただき、保健師としての技術や視点、知識を学ぶことができました。分からないことを質問した時は、丁寧に答えてくださり、教科書では学ぶことができないことを多く学ぶことができました。健康教育の実践では、住民の方々と相互のやり取りの重要性やあらゆる情報の中から正しい情報を選取できるように伝えることの必要性に気づきました。また、母子や高齢者の家庭訪問や特定保健指導、乳幼児健診やお達者クラブなど多くの事業を見学できました。保健センターの実習で学んだことを忘れず、就職後にも生かしていきたいと思います。

ニューフェイスの皆さんに
紙面インタビューで
お話をお伺いしました。



NEW ニュー
FACE !!
フェイス

日ごろのストレス解消や気分転換の方法など教えてください。	現在担当している業務や印象に残っていることなど教えてください！	出身地	お名前
アニメを見ることです。大学生の頃に鬼滅の刃にハマったことがきっかけで、今では生きるモチベーションになりました。これからも楽しみな作品がたくさんあるので、頑張れそうです。	地区担当保健師業務をさせていただいております。訪問や健診などでの母子支援や、地域の高齢者へ向けての健康教育など、こどもからお年寄りまで様々な対象の方々と関わり、楽しく学びながらお仕事をさせていただいております。	鹿児島県（喜界町）	菊池美帆さん 鹿児島市 中央保健センター
ストレス解消法は、よく寝ることです。日頃から睡眠を大切にしており、平日・休日ともに7～8時間は寝るようにしています。また、私は高校生の頃からダンスをしており、社会人になった今でも時々大学時代のダンスサークル仲間と集まって踊り、リフレッシュしています。	地区担当保健師として、新生児から高齢者まで幅広い世代の人々が健康を維持し安心した生活を送ることができるようサポートを行っています。 業務を行う中で、地域には、子育てや生活において悩みや孤独を感じていたり様々な問題を抱えているケースが多く存在することを知りました。これらの経験から、市民の置かれている状況や背景を捉えながら、また信頼関係を築きながら、個々のニーズに合った支援を行っていくことが重要だと感じました。	鹿児島県（垂水市）	井手友香さん 鹿児島市 南部保健センター
休日に家族や友人との食事や買い物を楽しみにしています。平日は、プロ野球観戦をテレビでしています。	現在、川薩保健所健康企画課企画管理係に所属しており、衛生統計や衛生委員会に関すること、地域医療構想に関することを担当しています。 7月から9月はコロナ業務、11月からは鳥インフル業務と様々なことを経験することができました。自分の業務については、分からない部分が多く、少しずつ勉強を進めているところです…。	鹿児島県	宮下小春さん 鹿児島県 川薩保健所
映画を見たり、友人とご飯を食べに行ったりして気分転換しています。旅行も好きなのですが、コロナウィルスの影響で遠くに行くということが全くだきていなかったのが、少しずつ旅行もしていきたいです。	現在、精神保健業務に従事しています。色々な方が地域で生活していることを学びました。生活に困りごとを抱えた方をうまく支援につなげることができたことはとても印象に残っています。今後も住民のためになるような支援ができればと思います。	鹿児島県	二石詩織さん 鹿児島県 伊集院保健所
散歩をすることが好きなので、昼休み時間に同僚と職場近辺をウォーキングすることが最近の気分転換のひとつです。 休日は基本的に自宅でのんびりしたり、好きなドラマを一気見したりして過ごしていますが、余力があれば外に出て買い物をしたり、海や川など自然に触れあったりもしています。（笑）	地域保健福祉課 地域支援係に所属し、精神保健福祉に関することや自殺対策に関することを担当しています。実際のケースや現場対応に従事する中で自身の力のなさを痛感する日々ですが、周りの方々のお力添えを頂きながら少しずつできることを増やしていけるよう努めているところです。 自身の業務以外にも、新型コロナウイルス感染症対応や鳥インフルエンザ対応等を通して1年目から多くの経験をさせていただきました。そこでの経験や、対応業務を通してたくさんの頼れる先輩方とお話することができたことが今後の自分の財産になると感じています。	鹿児島県（薩摩川内市）	小園彩加さん 鹿児島県 川薩保健所



その他伝えたいことなんでもどうぞ！	チャレンジしていることやこれからやってみたいことを教えてください。
4月に仕事を始めてから、長いようで短い月日が流れました。私の部署は1年目が1人で最初は不安でいっぱいでしたが、毎日先輩方がよく話を聞いてくださり、とてもありがたいです。みなさまも、長期化するコロナで、大変お忙しいと思います。今回はこのような紹介の場をありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。	成人分野を頑張りたいです。母子分野は対象と関わるチャンスが多く、経験を積ませていただいています。しかし、成人は関わるチャンスも少なく、自分の知識も浅く、データからの読み解きや、生活習慣病の知識、介入など分からないことがたくさんあります。自己学習や先輩方との勉強会など色々な機会を見つけ、積極的に学びたいと思っています。
毎日が秒速で過ぎ去っていきますが、入庁してから現在までに数え切れないほど多くの経験をする事ができ、その経験や市民との関わりを通して様々なことを吸収できました。失敗や至らない点もまだ多くありますが、困った際は上司や同僚に相談し、保健師として、そして社会人としてのさらなるスキル向上に努めていきたいです。	鹿児島市は研修制度が充実していると感じており、様々な研修に参加することを心がけています。これまで受けた研修は全て現在の仕事に役立っていますが、なかでも乳幼児やその親への具体的なアプローチについての研修は非常に勉強になり、その後積極的に支援に取り入れています。 地域に出向き市民と関わる中で、担当地区における健康課題を捉えることができたが、その課題に対する直接的な働きかけがあまりできていない現状があります。今後は課題解決への支援を行ったり、健康な地域づくりのために何ができるか市民と一緒に考えていきたいです。
	感染症の流行が収まってきたら、旅行をたくさんしたいと思っています。 (旅行のために、少しずつですが貯金を頑張っています。)
ご迷惑をかけることも多いと思いますが、頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。会ったときにはぜひ声をかけてください。	様々な研修を受けたり、関係機関に伺いながら精神保健分野の支援について学んでいます。約1年働いて、公務員としてどのように働くのかなどわかってきたので、来年からはより先を見通して業務を行うようにしていきたいと考えています。
1年目でわからないことばかりですが、はやく一人前になれるよう精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。	一番は学生時代からの夢である海外旅行に行きたいです！ また、日本全国の観光地をめぐるたりおいしいものを食べたりして、自分の知らない他県の魅力をたくさん知る旅もしたいと思っています。海外旅行に向けて、英語の勉強も頑張りたいです！

職場紹介

鹿児島県庁障害福祉課

川崎 誉代 (S61年卒)

鹿児島県庁の保健師は、令和4年度には2部12課に24名が配属され、行政庁舎1階、2階、3階、4階の各フロアで働いています。県保健師の約18%が県庁内で働いている状況です。そのうち「しおさい会会員」は14人です。

筆者が県庁勤務した平成3年頃は、山下町（現在鹿児島県民交流センター）に古びた薄暗い県庁舎がありました。当時は看護行政、成人保健、母子保健、県職員の健康管理部署に10名程の保健師が勤務していました。あれから30有余年、保健所法は地域保健法にかわり、健康増進法、介護保険法等の各種法律が施行され、公衆衛生行政の広がりと共に業務は複雑になりました。一方で、県職員的大幅な人

員削減、地域振興局体制という県行政の組織改革もあり、県庁内の政策企画や予算獲得に關与する技術専門職が必要というところで、精神保健、感染症、医療計画、難病、介護保険、地域包括ケア、国民健康保険、令和4年度には新型コロナウイルス感染症担当部署に保健師が新たに配置されました。

さて、県庁の仕事は年4回の県議会と予算要求と決算処理があり、初めての県庁勤務で困るのは予算システムの操作や国や市町村との補助金の扱いや委託事務です。会計規則本を見たり、先輩に相談したりするなどして対応しています。「こんな事するためには保健師になつたんじゃない!!」と思うこともしばしばありました。その先に保健師が企画した事業があり、県民サービスにつながっているんだ！と自身に言い聞かせ、日々頑張っています。

県庁保健師の担当業務以外の活動について紹介します。新型コロナウイルス感染症

用務では、保健所派遣の他に、令和2年度当初は宿泊療養施設運用マニュアル作成への協力、宿泊療養施設への感染者の連絡調整、疫学調査等に従事しました。感染者が急増した令和3年度には増設した宿泊療養施設や中間治療施設に看護職としての派遣もありました。令和4年度は、さらに増加した感染者の疫学調査を県庁内で行い、保健所を後方支援しました。

また、令和4年11月から発生した高病原性鳥インフルエンザでは、24時間体制で殺処分等に従事する職員の健康観察業務に3交代制の各班1、2人派遣され従事し、なんとか、保健師間の協力により乗り切ることができました。

県保健師にとって、県庁はジョブローテーションの重要な配置先にもなり、新任期後半から中堅期前半、つまり20代後半から配置されることも多くなりました。前段でも記載しましたが、企画事務や予算関係の業務、多くの事務職

との交流を通じて、保健所等の出先機関では得がたい経験も多く、貴重なOJTとなっています。

時に18階の高層庁舎に押し潰れそうな気持ちになります。が、庁舎1階には大きな生協売店があり、何より、お昼休みに出会う保健師仲間とのマスク越しのおしゃべりが楽しみとなつています。分散配置が顕著な県庁保健師ですが、コロナ終息後には時間外での交流会が持てたらと願っています。



仕事始めの日に県庁ロビー前で撮影
(筆者は前列左から3番目)

編集後記

皆様のご協力のおかげで、しおさい第38号をお届けすることができました。お忙しい中、快く寄稿いただきました方々に心より感謝申し上げます。

(文責:羽生)

第22回 しおさい会総会のご案内

日時: 令和5年8月5日(土) 午前10時~12時30分(研修会11:00~12:30)

場所: 鹿児島市よかセンター会議室

(※現地開催およびWeb開催・配信のハイブリッド方式で開催します。)

内容: 1. 書面総会…議長、議事録署名人、役員により実施

会員様は書面表決書でご参加

2. 研修会……『しおさい会の歴史とこれから』

講師 徳永龍子 氏(鹿児島純心女子大学名誉教授)